

秦野市長 令和6年 年頭所感 ～「水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市（まち）」 の実現に向けて～

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へと移行するなど、大きな転換期を迎えた昨年ですが、一方で、一昨年から続く物価高騰は、今なお、先が見通せない状況が続いています。

そのような中、本市では、子育て世帯や低所得世帯への給付のほか、高騰する食料費や、燃料価格などへの支援を行い、市民の暮らしと事業活動を守り、地域経済の活性化につながる対策を適時適切に実施してまいりました。

また、新東名高速道路の全線開通を見据えた「表丹沢の魅力づくり」の取り組みや、小田急線4駅周辺のにぎわい創造に向けた「まちづくりビジョン」策定のほか、念願であった産科有床診療所の開設に向けた施設整備を支援し、安心して妊娠・出産できる環境づくりを進めるなど、「総合計画はだの2030プラン」を着実に推進することができたと考えております。

さて、来年度に向けた本市の財政状況を申し上げますと、まず、歳入面では、生産年齢人口の減少がみられることに加え、6月から予定されている定額減税の影響などにより、市税全体では、前年度と比べて、減少することを見込んでいます。一方、歳出面では、少子・高齢化が進行する中、社会保障費の増加を見込むことに加え、人事院勧告のプラス改定などに伴う人件費の増加を見込んでいます。

このような中でも、持続可能なまちづくりを進めていくためには、将来を見据え、より投資対効果の高い事業を選択し、実施していく必要があります。そのため、市の貯金である財政調整基金や市債については、適正な残高に配慮しながら積極的に活用し、予算を編成していくことが必要と考えています。

こうした状況を踏まえると、令和6年度の一般会計の予算規模は、国の補正予算の動向にもよりますが、現時点の概算では、前年度を上回る見通しです。

新年度におきましては、令和9年度に予定されている新東名高速道路の全線開通を本市発展の絶好の機会と捉え、将来のまちづくりの基盤ともなるインター周辺を整備を着実に進めるとともに、表丹沢の体験コンテンツを担う人材の

育成や魅力発信の拡充など、OMOTANブランドの定着に向け、表丹沢の魅力づくりをさらに推し進めます。

こうした取り組みと合わせて、小田急線4駅周辺では、各駅それぞれの特色を生かしながら、まちづくりビジョンを実現するための具体的な計画の策定を進めるほか、地域経済の好循環と地域コミュニティの活性化を目的とした電子地域通貨の運用開始に向けた準備を進めるなど、活力あふれるにぎわい創造に向けて取り組めます。

さらに、女性と子どもが住みやすいまちづくりを進めるため、昨年11月に開設された産科有床診療所との連携により、産後ケア事業の拡充に取り組むほか、公立児童ホームの対象学年の拡大、小児医療費助成のさらなる充実など、妊娠・出産期から子どもたちが社会にはばたくまで、市民が安心して、子どもを産み・育てられる環境をさらに整えていきます。

また、安全・安心な暮らしを実現するため、災害時に自力での避難が難しい方の個別避難計画の作成や急傾斜地の崩壊防止工事、利用者が安全に施設を利用できるようにクアーズテック秦野カルチャーホールの特設天井の改修工事を進めるほか、デジタル化の推進やカーボンニュートラルといった課題にも、積極果敢に挑戦していきます。

令和7年1月1日には、本市は市制施行70周年を迎えます。「ふるさと秦野」への誇りと愛着がさらに深まるよう、今年、プレ事業を開催するとともに、来年迎える節目の年に向け、記念事業の準備を進めます。

このように、「総合計画はだの2030プラン」に位置付けた取り組み等をさらに進めていくことで、都市像である「水とみどりに生まれ 誰もが輝く暮らしよい都市（まち）」の実現を目指します。

以上が現時点における令和6年度予算の編成状況ですが、詳細は、次回の記者会見で発表させていただきます。

ぜひ本年も、秦野市の魅力に磨きをかけていく姿を大いにご取材いただきますようお願いし、年頭所感とさせていただきます。